

SDM

System Design and Management

慶應義塾大学大学院
システムデザイン・マネジメント研究科



INTRODUCTION

科学技術、社会、人間。
現代の諸問題を解決する鍵は、
システムにある。

現代社会の多種多様な問題を図る 全体統合型学問

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科（慶應SDM）は、科学技術領域、社会領域、人間領域を問わず、広く「システム」という共通の視座から問題解決に取り組む独立大学院です。

現代社会においては、さまざまなシステムが大規模・複雑化し、数々のトラブルや事故、事件、紛争を引き起こしています。そうした問題を解決するためには、部分に特化する専門的学問だけでは不十分です。システムの全体と部分の関係を的確に分析し、解決策を創造的にデザインして、着実にマネジメントする全体統合型の学問＝SDM学（システムデザイン・マネジメント学）とその実践が求められます。慶應SDMはそうした要請に応えるため、2008年に設立されました。

科学技術、環境問題、政治、安全保障、ビジネス、組織、コミュニティ、メディア、交通、教育、人間心理……慶應SDMでは、環境共生、安心・安全、最先端技術、国際協調、危機管理といった社会のニーズを考慮しつつ、あらゆる分野についてシステムの観点から研究と問題解決を行っています。現実世界の課題に挑み、未来を創るための研究と実践の場、それが慶應SDMです。

国際協調

危機管理





システムズエンジニアリングと デザイン思考の融合

慶應SDMの問題解決手法には大きく2つの柱があります。1つは「システムズエンジニアリング」。もともとは航空宇宙機器や軍事システムなどの大規模システムを、多数のスタッフにより着実なステップを踏みながら作りあげingることを目的として発展しました。その後、都市、経営、医療、インターネットなどにも応用され、社会領域も取り扱うようになりました。2つめは「デザイン思考」。モノづくりをしながら自由に発想を広げていく開発手法で、フィールドワークやブレインストーミング、プロトタイプを使ったワークショップなどを通じて参加者のクリエイティビティを引き出すことを重視します。従来、システムズエンジニアリングとデザイン思考では考え方が相反すると思われてきました。しかし、システムズエンジニアリングだけではユーザーとの共感やクリエイティビティの飛躍が難しく、デザイン思考だけではシステムティックに具現化する面が不十分です。慶應SDMでは両者を組み合わせることによって大きなメリットが得られると考え、両者を補完し統合する開発手法を構築しました。日本はもちろん、世界でも先進的な取り組みです。

大きな構想を描き、 世界をリードしていく人材を育てる

慶應SDMでは、全体統合型の解決策を提案しながらミクロのレベルまで解決策を精緻化できるシステムズデザイナーやプロジェクトリーダーの育成を図っています。現実世界の課題に対して大きな構想を描き、さまざまなステークホルダーとの調整を行いながらシステムを創っていくには、SDM学をマスターするとともに多くのスキルを身につける必要があります。エンジニアリング力、問題発掘力、創造力、統合力、コミュニケーション力、マネジメント力。こうした能力を備え、世界をリードしていく次世代リーダーを輩出するために、慶應SDMでは多様なプログラムを用意しています。

CURRICULUM

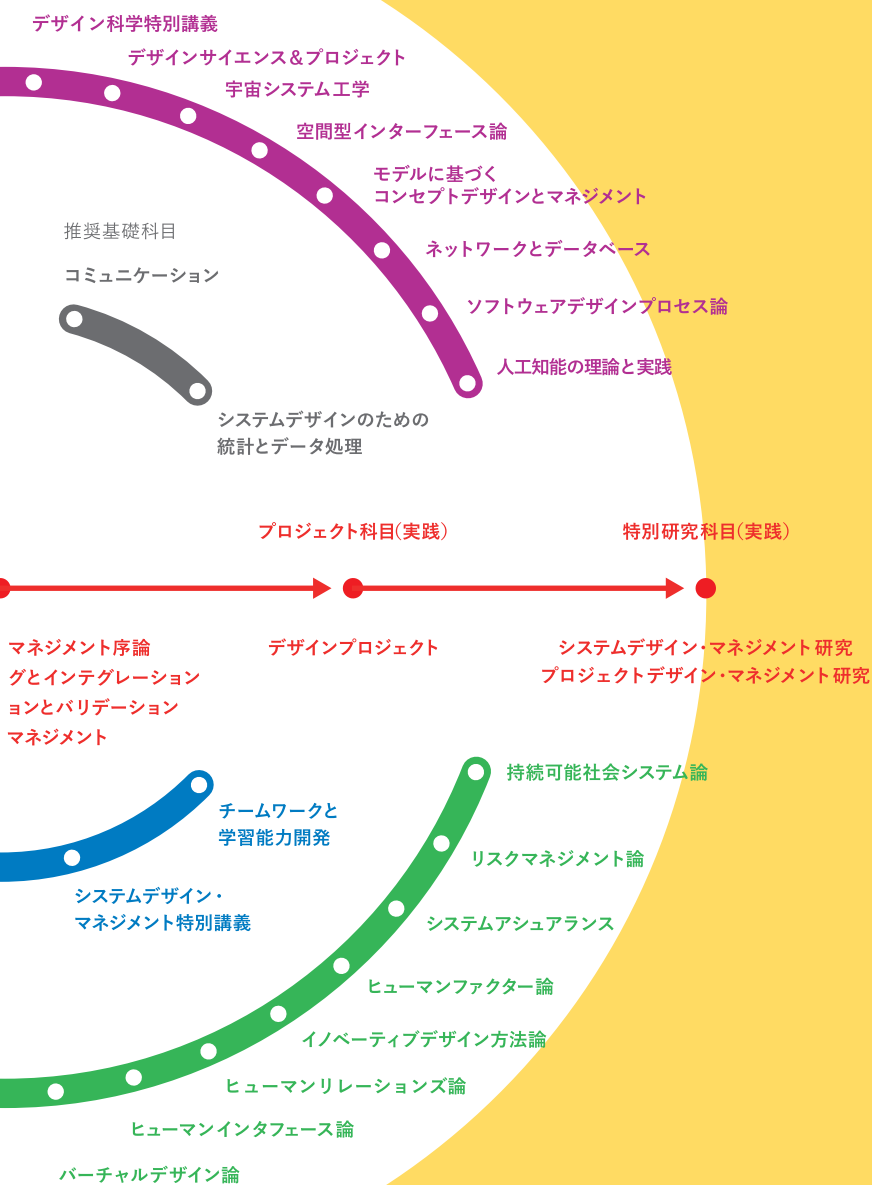
知識と体験、両面からアプローチし、
能力を広げていく。

慶應SDMでは、SDM学の学問的基礎や専門分野の知識を学ぶとともに、現実の問題解決に取り組むカリキュラムを通じて実践の体験を積んでいきます。知識と体験を組み合わせることによって、システムを深く理解し、的確に構築・マネジメントしていく総合力を身につけられるようになっています。

政治・経済・ビジネス系



システムズエンジニアリング・ 技術社会システム系



環境共生・安全・人間系

知識と体験を統合することで、システムに取り
組む総合力を高めていく。それが慶應SDMの
カリキュラムのコンセプトです。

修士課程では、まず必修のコア科目「システム
デザイン・マネジメント序論」「システムアーキ
テクティングとインテグレーション」「システム
ベリフィケーションとバリデーション」「プロジェ
クトマネジメント」を通じて、SDM学のベー
スとなるシステムズエンジニアリングの考え
方と方法論を学びます。また、システムを構築
するうえでの数学的基礎を理解するために「シ
ステムデザインのための統計とデータ処理」
を、多くの人々と協働していくうえでの基本
的スキルを身につけるために「コミュニケー
ション」を、それぞれ履修することが推奨され
ています。

SDM学の基礎を学んだうえで、自分の興味や
関心に従って専門科目を履修し、専門性を深め
ていくことができます。個別分野のシステムを
扱う一般の専門科目と、複数の分野を横断的に
捉える推奨俯瞰科目があり、さまざまな分野に
向かって自分の知識を同心円のように広げてい
けるようになっています。

一方、慶應SDMでは実践的体験を重視しており、
修士課程の学生は1年時の「デザインプロジェ
クト」で現実の課題にグループで取り組みます。
そして、「特別研究科目」でさらなる実践的研究
を行い、その結果を修士論文にまとめます。

また、専門的研究に多くの時間を使って研究
能力を磨く「リサーチインテンシブコース」
と、すでに専門的能力を有する社会人を対象と
して講義履修に比重を置く「ラーニングイン
テンシブコース」の2コース制をとっており、
経験とニーズに応じてコースを選ぶことができ
ます。

後期博士課程は専門的な研究を中心に行う課程
です。SDM学の基本を共有するために、コア科
目やプロジェクト科目などの受講を強く推奨し
ています。

CURRICULUM

修士課程では、まずシステムズエンジニアリングの基礎と基本的スキルを習得します。
そして、それをベースとしてさまざまな分野のシステムについて専門的に学んでいきます。
全体に通底する物の見方・方法論を身につけつつ、各分野の多種多様な事例や解決策を学ぶことで、
さまざまな知識をつなぎ、真に役に立つ知恵へと昇華させていくことができます。

知識をつなぐ。

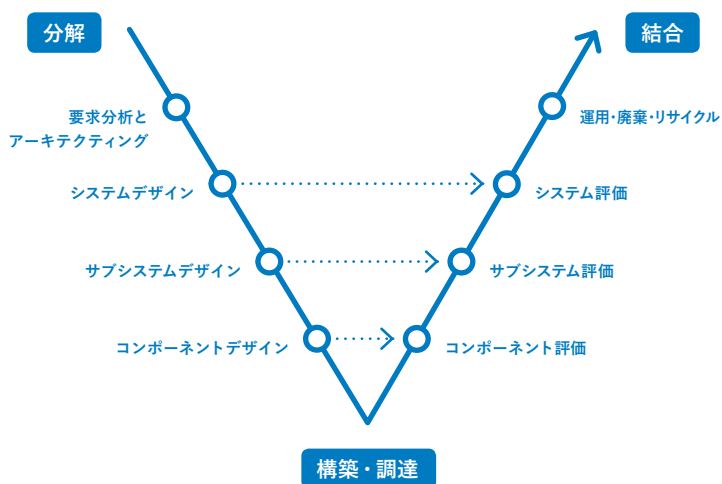
修士課程に入った学生は最初にシステムズエンジニアリングの重要な概念であるVモデルについて徹底的に学びます。

Vモデルでは「分解」と「統合」によってシステムを構築していきます。Vの左側が分解、右側が統合です。大規模・複雑なシステムを、サブシステムからより小さな単位へと順次分解していき、全体から詳細までのデザインが終了したら、システムを順に統合していきます。Vの左から右に向かう矢印は、デザインの各レベルに対応して検証と有効性確認 (Verification and Validation) を行うことを表しています。

Vモデルは全体と部分の関係性を捉えるための大きな枠組みとして活用でき、科学技術領域、社会領域、人間領域の幅広いシステムの開発に活用できます。Vモデルをベースとすることによって、別種のシステムや複合したシステムの開発も行えるようになります。

Vモデルの基礎知識を習得した後は、さまざまな専門科目を履修していきます。Vモデルという共通の枠組みを通じて、ばらばらだったさまざまな知識をつなぎ、自分の中で体系化していくことができます。

Vモデルは「分解と統合」、「デザインと評価」が重要であることを表しています。慶應SDMでは、Vのはじめに要求分析とシステムアーキテクティングがあることを強調します。地球環境・社会環境から他社・顧客まであらゆるステークホルダーからの多様な要求を確実に定義し、情報共有して、システムの全体像をアーキテクティングしたうえで、Vモデルに基づく分解と統合、デザインと評価(検証と有効性確認)を行っていきます。



先導者達の知恵に学ぶ。 SDM 特別講義

大規模・複雑化した現代のシステムに挑むには、書物のうえの知識や日々の体験だけでは足りません。SDM特別講義は、現代社会の最前線で優れたシステムを成功裏に創りあげた先導者達のさまざまな知恵—システムデザイン・マネジメントのグッドプラクティス—を学ぶ場です。経済界、政界、科学技術界など、各界の第一人者を招き、膝を交えて議論を戦わせることができます。現代の大規模・複雑システムと格闘した先導者達の内に蓄えられた知恵と人間性から何ものかを吸収する貴重なチャンスです。

過去の実施例（肩書きは当時のもの）

池上 彰（ジャーナリスト）「世界地図を読み解く」

池田 守男（（株）資生堂相談役）「2020年に描く新しい公益の姿」

北城 格太郎（日本アイ・ピー・エム（株）最高顧問）「日本経済の課題とイノベーションによる経済成長」

紺野 登（多摩大学大学院経営情報学研究科教授、KIRO（株）代表）「知識経営とデザイン」

坂根 正弘（コマツ代表取締役会長）「コマツの経営構造改革 ～強みを磨き、弱みを改革～」

松岡 正剛（編集工学研究所所長・イシス編集学校校長）「編集のシステムの思考とは」

村上 憲郎（（株）村上憲郎事務所代表取締役、元・グーグル米国本社副社長兼日本法人社長）
「スマートグリッドが切り開く新生スマート日本」

山崎 直子（宇宙飛行士）「宇宙機におけるシステム設計」



社会人学生にも 学びやすく。

慶應SDMには、社会人として仕事しながら通っている学生も大勢います。そうした学生も学びやすいよう、さまざまな工夫を行っています。

5時限は17時15分から、6時限は19時から開始し、土曜も一日中授業を行っています。また、多くの授業をビデオに収録し、アーカイブ教材として保管しています。e-learningはそうした教材をインターネット経由で事後に視聴し、単位の取得を行える仕組みです。履修申告した授業を遠隔地での学習や自宅での復習のために視聴できます。

慶應SDMでは、さまざまな分野のシステムについて単に知識を得るだけでは終わりません。新しいシステムを提案し、その成果を検証することを重視しています。修士課程の学生は「デザインプロジェクト」や特別研究科目で現実の課題に取り組み、実践経験を積むとともに、学んだ知識を、体験を通じて自分の血肉にしていきます。

現実の課題に立ち向かう。

基本から実践へ。 「デザインプロジェクト」

修士課程1年時に履修するデザインプロジェクトは、「システム×デザイン思考」という独自のアプローチを用いながら、社会に全く新しい価値や価値の変化をもたらすプロダクトやサービスを創出するための手法と考え方を実践的・体験的に学ぶプロジェクト型の講義です。

プロポーザーと呼ばれる企業や自治体が抱える課題を、様々な手法を駆使しながら解決する過程で、「見たことも聞いたこともないが説得力がある」解決策を生み出すための、イノベティブに思考する力を鍛えます。世の中の誰一人正解を知らない、という問題の解決にグループで取り組むことの大変さと面白さを味わうことができます。

「システム思考×デザイン思考」を体験

デザインプロジェクトではコア科目で学んだシステムズエンジニアリングやシステム思考を実践するとともに、デザイン思考のプロセスと手法を実体験の中で学びます。デザイン思考はクリエイティブなデザインの実現を目指す開発手法で、人々の行動を観察するオブザベーション、グループによるブレインストーミングやワークショップ、実際にモデルを作りながら人々の共感を高めていくプロトタイピングを

重視します。慶應SDMではVモデルに従ってデザイン思考のプロセスと手法を独自に整理しており、従来のデザイン思考よりシステマティックでイノベティブな方法を学ぶことができます。グループで提案した新しいシステムは、さらに修士論文や政策・新規事業・起業にもつながっています。

2019年のプロポーザーと取り組んだ課題

三菱地所株式会社 スポーツ×街づくりのトップランナーになる方策

株式会社JTБ 既存の枠を超えた「旅」の創造

株式会社萩野屋 未来の地域観光における非日常感の創出

日本ATM株式会社 豊かな生活をもたらすための金融インフラ

オリンパス株式会社 「視覚の拡張」による専門家への新たな価値提供

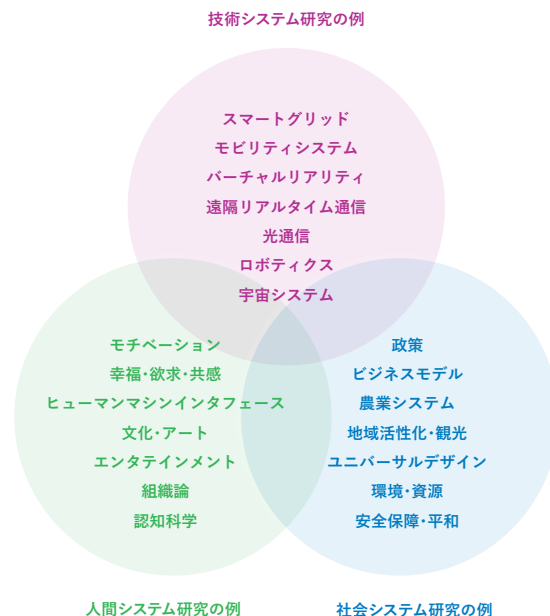
宮崎県新富町 チャレンジする人が移住したくなるまちづくり

独立行政法人国際協力機構&味の素ファンデーション ガーナでの栄養不良による子供の脳の発育不良を救う

ラボに参加し、実践的研究を論文にまとめる。 「特別研究科目」

修士課程の研究の中心は特別研究科目の「システムデザイン・マネジメント研究」と「プロジェクトデザイン・マネジメント研究」です。学生はラボ（研究ユニット）に参加しながら、2年間（標準）にわたって特定のシステムの研究に取り組みます。学生同士の連携、複数の教員と学生の連携、共同研究企業や他大学との連携など、協働により研究を行うことを強く推奨しています。複数のラボに参加して研究することも可能です。

研究の成果は修士論文としてまとめます。慶應SDMで得た知見と体験の集大成とすることが期待されます。

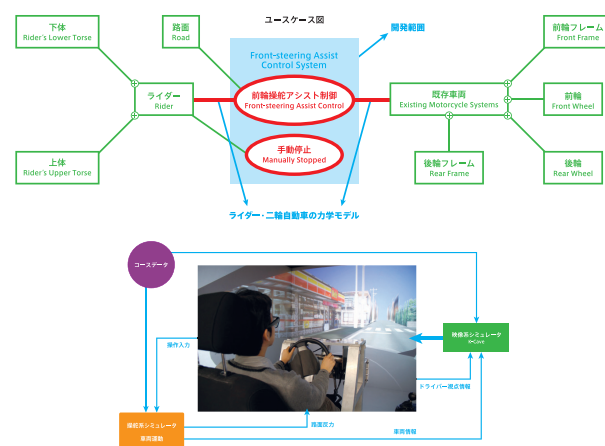


研究事例

技術・社会システムデザインの研究

大規模・複雑な技術システムや社会システムの課題を解決するため、モデリングとシミュレーションを駆使し、安全で高信頼のシステムをデザインしています。要求と機能を明確にしたうえで、概念設計の候補を洗い出し、V&V(Verification and Validation)を計画し、実行します。右の事例は、システムズモデリング言語SysMLを用いた次世代モビリティシステムの提案と、没入型ドライビングシミュレータを援用したシステムデザインです。他にも、エネルギーマネジメント、スマートグリッドシステム、モビリティシステムマネジメント、次世代GPSシステム、光通信システム、コミュニケーションシステム、ヒューマンマシンシステム、宇宙システム、ビジネスシステム、NPO/NGO、政治・経済・外交システム、文化・アートシステムに関する研究を行っています。

SysMLなどのモデリング・シミュレーションを使った研究例



人間中心システムデザインの方法論・手法の研究

SDM学の基盤であるシステム思考・デザイン思考の研究や、ワークショップを推進するための基本的な方法論や手法の開発も行っています。以下の事例は、ステークホルダーの関係性を明らかにするのみならず、行為の原因となるさまざまな欲求を分析する欲求連鎖分析(WCA, Wants Chain Analysis)の開発と、それをを用いたデザイン思考ワークショップの有効性に関する研究例です。利己的な欲求と利他的な欲求の関係性を明確化することで、一般のビジネスモデル、CRM(Cause Related Marketing)、社会企業、公共施策などのデザインが可能となります。方法論、手法の提案の他にも、モチベーション、共感や感動、イノベーション教育の研究など、人間に関するさまざまな研究を行っています。



WCAの提案と、それをを用いたデザイン思考教育に関する研究例

人間・社会システムの問題発見と 解決策提言に関する研究



不耕作地×中高年労働者×自然栽培というソリューションとアンケート調査による研究例

社会や事業体における課題はステークホルダーが多様で、利害も複雑に関連し合っています。新規事業、起業、NPO/NGO、政治、経済、外交、防衛、文化などが関係し合う人間・社会システムにおいて、ステークホルダーの関係と物事の関係性を明確化することにより、局所解ではなく、全体最適解を求める研究を行っています。地域活性化から安全保障、幸福、平和までさまざまなテーマの研究があります。例えば、上記の例では、自然栽培という新しい農法と、耕作放棄地、中高年失業者を組み合わせる新たなビジネスモデルを提案し、新規事業を展開する実践的な研究を行っています。

INTERVIEW

システムズエンジニアリング、
システム思考などについての理解はまだ不十分。
教員も学生も本気で学び、
社会全体への貢献度を上げていきたい。

慶應義塾大学大学院

システムデザイン・マネジメント研究科委員長

西村 秀和



開設からこれまでに振り返って

慶應SDMは、開設から2020年4月で13年目を迎えました。開設当時、私たちは新聞でもまだ話題になっていないような、最先端の研究の方向性をもっていました。様々な分野から集まってきた教員たちは、「システム」が何かをとらえようと試行錯誤的に動いていた感があり、お互いに支え合おうという意識がありました。それから5、6年すると、世の中でも「システム全体を俯瞰して物事を考える必要性」について論じられるようになり、新聞で、慶應SDMよりも先を行っている内容の記事を見ることが増えてきました。最近では、私たち自身、システムズエンジニアリングに関する理解が進んだこともあり、教員同士であまり話し合いをしなくなったように感じています。スタートから10年以上が経過した今、「原点回帰」して、もう一度

手探りしながらもっとチャレンジングなことにトライしても良いかも知れないと思っています。これまで通りで良いということではなく、これまでやってきたことを見直す時期にきていると思います。

技術開発とウェルビーイングとベースライン

2007年に慶應SDM開設に向けて準備していたとき、いわゆる理系的な分野からシステムズエンジニアリングにアプローチしようと考えていたのですが、評議員の皆様からの指摘もあって文系の分野も取り入れることになりました。これは、当時とてもチャレンジングなことでしたが、真の「文理融合」が実現したことで慶應SDMは本来の意味で多様化しました。そして、「幸福学」という思ってもみなかった研究分野が生まれました。個人的には、英語で言われ

ている「Well-being」と考えた方が良いと思っています。「良くある」ということです。私は、自動運転の安全性について研究していますが、この場合、安全ではない状況でなくなれば安全であるとベースラインを引きます。「良くある」についても同様だと考えていて、「良くある」ではない状況ではないならば、「良くある」というベースラインを引くことができます。安全もウェルビーイングも、上を見ると際限がありません。このベースラインの考え方がまずは重要です。今後、AI（人工知能）はこれまで以上に世の中に深く関わってきます。AIに対して、人を認識して衝突を避ける学習をさせたとしても、白人ばかりの画像で学習したAIは、黒人を人として認識できずに避けることができないという指摘があります。本来は、全世界の人口割合と等しく学習させるべきなのに、それを怠ってしまう。これは、設計者の意識の問題と言えますが、倫理的にその

技術についてしっかり考えて、そして開発、設計する必要があるでしょう。さらに、もし自動運転のシステムが、人々の生活、あるいは社会にとってのウェルビーイングのためにあるのなら、自動運転システムにとってのウェルビーイングが何であるかについても定義しなければなりません。多くの人々が良かれと思って様々な活動をし、あるいは技術を開発した結果、便利な社会になる一方で、地球温暖化の問題は深刻化してしまう。地球に住めないなら火星に行くという計画もあるようですが、本当に地球を捨ててしまっても良いのか、こういったことを論理的にシステム思考で考える場所を慶應SDMが提供する、そういう存在でありたいと思います。

専門性を減却せよ

学生たちによく話すのは、「専門性の減却」です。専門性を減却すると、システムとして考えることが可能になります。私は、長年に渡り「制御」について研究してきましたが、システムズエンジニアリングは「制御は本当に必要なのか」を問います。もちろん専門性は大事です。ですから、減却と言っても、消去するということではないです。システムズエンジニアリングのアプローチでは、自分の専門の範囲だけでものごとを見ようとするのではなく、システム全体を様々な

方向から見なければなりません。

実は、システムズモデリング言語SysMLに注目したきっかけは、自分の専門の「制御」が書籍“A Practical Guide to SysML”に書かれていたからでした。もちろん、システムをつくりあげる上で、制御に関わることは多々あります。しかし、この書籍をよく読んでみると制御のことはほとんど書かれていません。「制御」をきっかけにして、この書籍の翻訳を通してもっと視野が広がるシステムズエンジニアリングの世界を知ることができて、とてもラッキーでした。2019年に私が翻訳して出版した『システムズエンジニアリングハンドブック第4版』には、システムズエンジニアリングの本質、必要性について書かれていて、本当にいろいろなことを学ぶことができました。教員も勉強し、学生達に教えることでまた学ぶ、これこそが「半学半教」。これを繰り返してきた年月だったかなと感じています。

新たな10年に向けて

システムズエンジニアリング関連の必修講義を担当していますが、1コマ90分間の授業を聴いただけで、その内容を簡単に理解できるかと言えば、そんなことはありません。実践してみても、はじめて「わかった」、「理解できた」と実感できるのではないのでしょうか。「わかった」という言葉の意味を



わかっているのか？と学生へ問いかけることが多いのですが、私たち教員もSEハンドブックに書かれていることが本当に上手くいくかどうかを実践、体験せずにわかったとは言えないはずです。「もっとわかりたい」と思うのが「本気の学び」です。今まで以上に議論を重ね、教員も学生もお互いに理解を深めていきたいと思います。ある中国からの留学生（新卒）と回転寿司に行ったら、彼が「日本人はアグレッシブではない」と言うのです。とことん理解しようとする、本気で学びたいアグレッシブな学生を是非受け入れたいですね。慶應SDMの多様性は本当に高いレベルにあると思いますが、もっともっと留学生に来てもらい、グローバルな場所にしたいと思っています。慶應SDMはお陰さまで、すでに官公庁や企業など外部から大変高い評価をいただいています。しかし、私たちにできることはもっとたくさんあるはずです。社会全体に対して貢献していく力を、さらに強固なものにしたいと思っています。それには一人で考えるのではなく、外部の人との交流を深め、情報を共有し、方向性を探り究めようとする意識を持つことが大切でしょう。システムズエンジニアリングアプローチ、デザイン思考、プロジェクトマネジメント。これらを研究・教育の中でしっかりと位置付け、学問としてのSDMを進化させていきたいと考えています。



PROFESSOR

多彩なキャリアと研究分野が 重なり合って、新しい挑戦が生まれる。

専任教員



西村 秀和 にしむら ひでかず 研究科委員長／教授

専門分野: モデルベースシステムズエンジニアリング、システム安全、制御システム設計、ユニバーサルデザイン、アーキテクチャに基づく社会・技術システムデザインとマネジメント。
著書: 「システムズエンジニアリングハンドブック第4版」「システムズモデリング言語SysML」(翻訳)「MATLABによる制御理論の基礎制御系設計」(共著)(東京電機大学出版局)など。企業等との共同研究、講演依頼など多数。



五百木 誠 いおき まこと 准教授

三菱電機(株)、一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構を経て現職。

専門分野: システムズエンジニアリングをベースとしたシステムデザイン全般(人工衛星システム、高信頼度システム、社会システム)、イノベティブ思考教育。



小木 哲朗 おぎ てつろう 教授

三菱総合研究所、東京大学助教授、筑波大学准教授を経て現職。

専門分野: ヒューマンインタフェース、バーチャルリアリティ、臨場感コミュニケーション、ビジュアル・シミュレーション。
著書: 「サイバースペース入門」(日本実業出版社)、「シミュレーションの思想」(東京大学出版会)など。



神武 直彦 こうたけ なおひこ 教授

宇宙航空研究開発機構、欧州宇宙機関を経て現職。

専門分野: 宇宙開発から街づくり、農業、スポーツまで、IoTを中心としたテクノロジーと社会調査による多様なデータを活用したシステムデザインの取り組みを国内外で推進。アジア工科大学院招聘教授。

著書: 「エンジニアリングシステムズ」(慶應義塾大学出版会)「センサシティー 都市をシェアする位置情報サービス」(インプレスR&D)など。



白坂 成功 しらかさ せいこう 教授

元・三菱電機(株)。

専門分野: システムズエンジニアリング、システムアーキテクチャ、イノベティブデザイン、宇宙システム工学。技術システムから社会システムまで、統合的にシステムをデザインする方法論。

著書: 「システム×デザイン思考で世界を変える 慶應SDM『イノベーションのつくり方』」(共著)日経BP社など。



高野 研一 たかの けんいち 教授

元・(財)電力中央研究所上席研究員。

専門分野: 大規模技術システムにおける組織の安全文化醸成、リスクマネジメント・ヒューマンファクター。組織診断・組織活性化、事故の根本原因分析など、豊富な安全管理の実務、コンサル経験。

著書(訳書): 「組織事故」「保守事故」(日科技連出版)など多数。

SDM 研究所顧問・特別招聘教員

狼 嘉彰 おおかみ よしあき

SDM 研究所顧問

SDM 研究科初代委員長・元教授、東京工業大学名誉教授。慶應義塾大学システムデザイン工学科教授、宇宙開発事業団研究総監を歴任。専門分野は、戦略的システムズエンジニアリング、複雑システムのダイナミクスと制御。

日比谷 孟俊 ひびや たけとし

SDM 研究所顧問

SDM 研究科元教授、元・首都大学東京システムデザイン研究科教授。専門分野は、大規模科学研究におけるシステムデザイン。海外を含むロケットや航空機を利用した多数の微小重力実験を経験。

吉田 篤生 よしだ あつお

SDM 研究所顧問

吉田篤生会計事務所・所長税理士。財務会計の専門性を出発点として、経済、経営のシステムが自然界の大きな生態系の流れの中で起っている事を検証し、様々な経営問題解決の実践を行っている。

小林 正弥 こばやし まさや

特別招聘教授

千葉大学大学院人文社会科学部研究科教授。東京大学法学部助手、ケンブリッジ大学社会政治学部客員研究員及びセルウィン・コレッジ準フェローを経て現職。専門は、政治哲学、公共哲学、比較政治。著書に「政治的恩顧主義論」

林 美香子 はやし みかこ

SDM 研究所顧問

キャスター・エコライフジャーナリスト。札幌テレビ放送アナウンサーを経て、独立。北海道大学大学院農学研究院客員教授。慶應SDMでは2020年3月まで農都共生ラボ(アグリゼミ)を主宰。

福田 収一 ふくだ しゅういち

SDM 研究所顧問

Consulting Professor, Stanford University。専門分野: デザイン工学、感情工学、満足化工学、協調工学、技術経営、産産連携(並列分散処理化、自律分散経済化)、工学の戦略的展開(いかに現有資源で発展するか)、Personal Fabricationなど。

金巻 龍一 かねまき りゅういち

特別招聘教授

元・日本IBM株式会社 常務執行役員 戦略コンサルティンググループ代表。現・株式会社RIOO代表取締役、UCDA(ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会)理事。慶應SDMではインターンシップの授業を担当。

紺野 登 こんの のぼる

特別招聘教授

KIRO(知識イノベーション研究所)代表、多摩大学大学院経営情報学研究所教授。知識創造理論にもとづくイノベーションやデザイン思考など、知の創造の組織的・社会的生態(ナレッジ・エコロジー)をテーマとする。知の「場」の実践として「フューチャーセンター」の普及やワークプレイス・プロジェクトなどにかかわる。

慶應SDMは、大きな構想を描いて世界をリードしていける人材を育てること、そして現実世界の問題を解決していくことを重視しています。

そのため、教員陣には産業界出身者や海外経験豊富な人物など、狭い学問の殻に籠らない多彩な教員を揃えています。

社会のさまざまな側面を実体験してきた教員たちが学生を導き、サポートし、共に行動します。

それぞれのバックグラウンドや関心分野も幅広く、慶應SDM独特の壁のない知的交流のなかで、さまざまな新しい研究や活動が生まれています。



谷口 智彦 たにぐち ともひこ 教授
 経済記者、外務省外務副報道官、JR東海常勤顧問などを経て現職。内閣官房参与、安倍首相外交演説ライター。

専門分野: 国際政治経済学（通貨体制、覇権の消長）、日本政治外交史、パブリック・ディプロマシー。

著書: 「安倍晋三の真実」、「日本人のための現代史講義（本研教科講義録）」、「通貨燃ゆ：円、元、ドル、ユーロの同時代史」など。



谷口 尚子 たにぐち なおこ 教授
 東京工業大学准教授を経て現職。

専門分野: 政治学（政治行動論、政治過程論、政治学方法論、政策研究）。特に「普通の人にとって政治とは何か?」「どんな社会システムが人を幸福にするか?」という研究目的で調査・実験・統計解析を行う。

著書: 「現代日本の投票行動」（慶應義塾大学出版会）など。



当麻 哲哉 とうま てつや 教授
 元・米国3M社 Advanced Product Development Specialist、2019年より1年間、マサチューセッツ工科大学訪問研究員。

専門分野: 医療・教育・地域コミュニティのためのコミュニケーションデザインと、プログラム&プロジェクトマネジメント。PMP（プロジェクトマネジメント・プロフェッショナル）の資格を有す。

著書: 「グローバルプロジェクトチームのまとめ方：リーダーシップの新たな挑戦」（慶應義塾大学出版会）



中野 冠 なかの まさる 教授
 元・(株)豊田中央研究所。

専門分野: ものづくり企業のシステムとビジネスプロセスのデザイン、持続可能社会のデザインなど。日米欧国際共同研究に参画。

著書: 「経営工学のためのシステムズアプローチ」（講談社）、「いま世界ではトヨタ生産方式をどのように進化しているのか!」（日刊工業新聞社）、「空飛ぶクルマのしくみ」（日刊工業新聞社）など。



春山 真一郎 はるやま しんいちろう 教授
 ベル研究所Member of Technical Staff(MTS)、ソニーコンピュータサイエンス研究所先端情報通信研究室リサーチ、慶應義塾大学理工学部訪問教授を経て現職。

専門分野: 光空間通信の研究、建築ITの研究、ARの研究、コンピュータビジョンの研究、等。

著書: 「エンジニアリングシステムズ：複雑な技術社会において人間のニーズを満たす」、日本語版監訳（慶應義塾大学出版会（2014/2/23））、「可視光通信の世界」（工業調査会、第2章）など。



前野 隆司 まえの たかし 教授
 キヤノン（株）、カリフォルニア大学バークレー校、ハーバード大学、慶應義塾大学理工学部を経て現職。

専門分野: 人間システムデザイン（社会・コミュニティ、イノベーション、経営、教育、地域活性化、認知科学・哲学、ウェルビーイング（幸せ・健康・福祉）など）。

著書: 「幸せのメカニズム」（講談社）、「幸せな職場の経営学」（小学館）、「感動のメカニズム」（講談社）、「幸せの日本論」（角川）、「脳はなぜ「心」を作ったのか」（筑摩書房）など多数。

田子 學 たごまなぶ

特別招聘教授

株式会社東芝デザインセンター、株式会社リアル・フリーを経て、2008年株式会社エムテドを立ち上げる。現在は幅広い産業分野のデザインマネジメントに従事。デザインを社会システムの一部として大いに活用してもらうことをモットーに、様々な要素の関係を統合的に捉えた戦略によって、個別最適化ではなく全体適正化が成り立つコンセプトメイクからブランドの確立を視野にいれてデザインしている。慶應SDMではデザインプロジェクトを担当。

太刀川 瑛弼 たちかわ えいすけ

特別招聘准教授

デザインストラテジスト。NOSIGNER代表、創業者。慶應SDMではイノベティブデザイン方法論を担当。

濱口 秀司 はまぐち ひでし

特別招聘教授

コンセプトクリエイター、ビジネスデザイナー。京都大学卒業後、松下電工（現パナソニック）入社。全社戦略投資案件の意思決定分析担当となる。

保井 俊之 やすい としゆき

特別招聘教授

旧・大蔵省入省後、OECDや金融庁等を経て08年から慶應SDMで教壇に立つ。政策研究大学院大学客員教授を兼務。地域や政策など社会システムが研究領域。ICUより博士（学術）。『日本』の売り方（角川oneテーマ21）等著書・論文多数。

矢野 創 やの はじめ

特別招聘准教授

現・宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究所・学際科学研究所系助教。PMP。「はやぶさ」など、日欧米で10余りの宇宙探査・実験プロジェクトに従事。

米澤 創一 よねざわ そういち

特別招聘教授

元・アクセンチュア株式会社マネージング・ディレクター。SAPグループ統括、プロジェクトマネジメントグループ統括、教育責任者、品質管理責任者等を歴任。高難度プロジェクトの責任者も多く経験。

持丸 正明 もちまる まさあき

特別招聘教授

2001年、改組により、産業技術総合研究所 デジタルヒューマン研究ラボ 副ラボ長。2010年、デジタルヒューマン工学研究センターセンター長、および、サービス工学研究センターセンター長兼務。2015年より、産業技術総合研究所人間情報研究部門 部門長。2018年より、人間拡張研究センターセンター長。専門は人間工学、バイオメカニクス。人間機能・行動の計測・モデル化、産業応用の研究に従事。2002年、新技術開発財団より市村学術賞受賞、2011年、経済産業省 工業標準化事業表彰 経済産業大臣表彰ほか。2008～2017年まで、ISOTC159/SC3国際議長。2014年より、消費者安全調査委員会・委員長代理。

迷ったときに戻るところ。 学びの基礎に立ち返る場所です。

大学の学部では宇宙物理学の分野で研究を行っていました。慶應SDMを選んだ理由はもっと社会に寄り添った研究をしたいと思ったから。入学して、お客様からの要求を聞き出し、その定義を文章化していくことを学べたことは良かったです。相手にきちんと伝えるためには使う言葉をしっかり定義することが大切だと最初に教われました。

慶應SDMで印象に残っている授業はデザインプロジェクトです。6人のチームに分かれて実際の企業から出された課題に約7カ月間にわたって取り組みます。私たちは自転車事故を減らすための自転車シミュレーターを設計するという課題を与えられたのですが、まず自転車事故が起きる要因を調査し、そもそもシミュレーターを作ることが最善の解決策なのか問い直すことから始めました。

事故統計を調べたり、自転車店、国土交通省、関連団体といったステークホルダーにインタビューしたりと、自分たちの足を使って生の情報にアクセスしました。最終的にシミュレーターの形にまとめるだけでなく、特許を調べてビジネスモデルを考えるとところまで踏み込んだのも貴重な経験でした。慶應SDMで学ぶことによって、世の中のあらゆるものを見て興味を持ち、それが生まれた背景について考えられるようになりました。ものの見方が変わりましたね。

この春、電機メーカーに就職しました。大きな製品を扱うのでとても1人では実現できません。慶應SDMで学んだチームワークやコミュニケーション力を活かしながら、一緒に仕事をしていると安心できて楽しいと思われるエンジニアを目指していきたいです。



岩澤 ありあ

2010年4月入学、2012年3月修士課程修了
慶應義塾大学理工学部物理学科卒業
勤務先：電機メーカー

VOICE



佐竹 麗

2018年4月入学、2020年3月修士課程修了
北海道大学農学部卒業
前職：株式会社メディ・ウェーブ

夢の実現への力となるSDMの学び

娘の高校受験の前に子育てが一段落することが見えてきた時に、自分自身も楽しみながら、より社会や周囲に貢献できることをしたいと、今後について考えるようになりました。せっかくなら大学院でしっかり学んで今後にしっかりつなげたいと考え、「社会システム」を学べる大学院を探し慶應SDMにたどり着きました。大学院入学を決意することは簡単なことではありませんでしたが、入学相談の際に担当してくださった先生が、私のアイデアを聞いて「ぜひ一緒にやろう!」とってくださったことが背中を押してくれました。慶應SDMに入り、社会システムや様々な手法について学ぶことで、生きたシステムを生み出し育てていくための様々な視点や技術が得られることを実感しています。手法を使いこなし、社会をシ

ステムとして捉えた上で変化を促す試みをデザイン・実践することは簡単ではありませんが、仮説が間違っても得られた結果を基に改善すればいいという安心感を持って前に進むことができています。

留学制度(ケンブリッジ大学)を利用し、2018年にイギリス政府が策定した「A connected society -A strategy for tackling loneliness-」についての調査を行っていますが、その中でも、システムを俯瞰的に理解する力の重要性を実感しています。

また、慶應SDMで多様かつ専門性の高い多くの仲間・先輩・先生方に出会えたことは大きな助けとなっており、現在は、慶應SDMでの学びを生かし、より笑顔でいられる社会の実現に向けて歩みを進めています。

本当にやりたいことがあれば 何でもやれる自由度の高さがあります。

ソフトウェアエンジニアとして働きながら慶應SDMに通いました。会社が終わってから学校で授業を受け、グループワークを行い、深夜に帰宅して宿題や研究をこなすという生活です。1日睡眠3時間以下というきつい期間もありましたが、毎日刺激的で何もかもが楽しかったので続けられたと思います。仕事を続けながら学ぶのもいいと思いますね。学校で習ったことを次の日会社で実際に使ってみることができ、うまくいかなければすぐに先生に相談できるから。また、会社と学校という異なる環境を行き来することで僕自身のリフレッシュにもなりました。専門外のさまざまな授業を積極的に受け、ある授業をきっかけに、本来の専門とは違うテーマである人材の能力開発について研究しました。先生に相談して研究ラボを作り、納得するまでやりました。本当にやりたいこ

とがあれば何でもやれる自由度の高さが慶應SDMにはあります。

この研究が後押しする形で、以前より興味があった人事部に希望して異動し、今はエンジニア育成や教育の仕事をしています。直接モノづくりに携わるだけでなく、全体最適の視点で人材の能力を高めていくことも大きな貢献ではないかと思うようになったのです。現在の人事も個別最適化されているところがある。しかし、会社全体として本当にこれでもいいのか整理してみたいと今、考えています。もし慶應SDMに行かなかったらエンジニアを辞めていなかったでしょうね。僕にとって慶應SDMとは次のステージに行くための試練の場みたいなものでした。特に、専門性を持ちながらも全体像をつかみ切れていないことにストレスを感じている人にお勧めしたいですね。



川合 潤

2009年9月入学、2011年9月修士課程修了
Boston College, Arts and Science (Physics) 卒業
勤務先：ソニー(株)

在学生、修了生の声



須賀 健斗

2018年4月入学、2020年3月修士課程修了
中央大学総合政策学部卒業

2018年に中央大学の総合政策学部を卒業後、すぐ慶應SDMに入学しました。なぜ慶應SDMにしたのかといえば、まずは実学的であること。それにもう一つ、考えるためのスキルが欲しいと思ったからです。学生時代にある企

人の中で生きていくことの大切さを学ぶ

業でインターンをしていた時、新しい何かを考える際のスキルは意外に属人的であり、職人的な部分が非常に多いということに気付きました。そこで、僕自身も道筋を立てて考えられるようになりたい、その考えるスキルが欲しいと思ったのです。

実は、大学に入っても学部の勉強はまったくしていなくて、4年間ずっとインターンをしていました。それは、人生変えようと思ったからです。最初はきつかったですね。ノルマはなかったものの、テレアポはもちろん、仕事は自分で取っこななければいけません。一人で営業に行ったり、企画を考えたり、時にはそれが通ったりするのを体験するうちに、何かを考えて、提案して、それが実現した時のうれしさを知りました。そして、そうした経験が自分を変えら

れると気付かせてくれました。実際、自分の意思を持って考えることが増えたと思います。慶應SDMに入ったのは友人が通っていたからですが、ここに入ってわかったのは、どれだけ頭で考えても結局はそれを実行できるかどうかがかギになるということ。リアルかどうか大事なんですね。慶應SDMではいろいろなプロジェクトに携わりましたが、最終的にうまくいくのもうまいかないのも、その人に帰するところが大きい。研究をするにしても、データを集めるにしても、やはりいろいろな人の協力を得たり、紹介を経てできることって多いのです。大学院を選択するのはある意味プレッシャーです。でも、恐れずに選択する価値が慶應SDMにはあるんじゃないかと僕は思っています。

SDMでやりたいことはすべてやっとな、 自信を持っていえますね

京大大学院を出た後、神戸に本社のある米国系製薬会社に入社しました。ニーズや利益などのバランスによって意思決定をするのが米国企業の基本ですから、私がいいと思った提案も、社内での優先順位が低いというビジネス上の理由で、却下されることがしばしばありました。科学的に正しいことが正であると思ってきた理系の私には、納得できない部分もありましたね。そんな時に、夫が東京に2年間赴任するという。2年ならちょうどいいタイミングだと思い、いったん退職してKBSに入りました。刺激的で学びの多い時間でしたが、修士2年の12月に出産したため、必要最小限の授業と研究でKBSを修了することになり、「やり残した感」がありました。

その後、元の会社に復帰したのですが、40歳を目にした頃、15年間の仕事を振り返り、自分のこれからの人生や仕事について考えるようになりました。「55歳で早期退職して社会

貢献をしたい」と思っていたので、インプットの機会を増やすために、プロボノをしたり、デザイン思考の短期コースを経験しました。そして、慶應SDMが主催していたシステムxデザイン思考の1日ワークショップに参加したところ、参加者から大きな刺激を受け、慶應SDMに入学することを決めました。慶應SDMでは目的と要素のつながりでシステムを捉え、様々な社会課題をシステムで解くことを目指すため、課題やシステムに目を向けることが重要で、「1番になること」は求められていません。また、研究対象とするシステムが学生それぞれ違うため、互いの関心を認め合い、面白がれることが楽しかったですね。慶應SDMでは、やりたいことは全部やっとなと自信を持っていえます。人にとって「学び」の場はたくさんあるし、いつでも取り返しがきくと思っています。大学院もその1つ。慶應SDMは視野を広げたいとか、自分を変えたいとか、問題意識を持っている



加藤 めぐみ

2017年4月入学、2019年3月修士課程修了
慶應義塾大学大学院経営管理研究科 (KBS) 修士課程修了
京都大学大学院農学研究科修了
京都大学農学部卒業
勤務先: 日本イーライリリー株式会社

人はもちろんですが、新しいことを学んで自分の次の人生を広げたいという人にもいい場所だと思います。「慶應SDMに入学したいけど、やっていけるでしょうか」と悩んでいる子育て中の働く女性に相談を受けると、迷わず「絶対やった方がいいよ!」と背中を押しています。

VOICE

自分の発見したいことを探し、 自分自身を探求できる。



ジョン・テイントン

2011年9月入学、2013年9月修士課程修了
University of Pretoria,
Department of Systems & Industrial Engineering 卒業
前職: 自動車メーカー現地法人

南アフリカの大学を卒業した後、日本の自動車メーカーの現地法人で約3年勤務し、現在は奨学金で留学しています。大学ではインダストリアルエンジニアリングについて学び、会社ではサプライチェーンマネジメントや設備計画などに携わっていました。慶應SDMを選んだ理由は、システムズエンジニアリングの知識を深めたかったことと、マネジメントだけでなくデザインやクリエイティビティについても学びたかったからです。クリエイティビティには多視点でものを見て、それらを統合させることが大切だと思います。南アフリカと日本は全く文化や考え方が異なります。常に人とは違う視点を持つのが留学生のメリットです。例えば、南アフリカでは仕事とプライベートは完全に切り離されますが、日本ではその境界があい

まいです。こうした違いから学んで、スタッフの人材育成やマーケティング活動などに役立てることができそうです。

慶應SDMの学生は皆オープンで互いに助け合う精神があります。初めは日本語が難しくて緊張していましたが、学生が集まっている「大部屋」に行けば気軽に何でも話せるのでリラックスして留学生活を送っています。慶應SDMは自分の発見したいことを探せる場所であると同時に、自分自身を探求するための場所。卒業したらここで学んだことを活かして起業したいと考えています。キャンパスではKBS(慶應ビジネス・スクール)やKMD(慶應メディアデザイン研究科)の学生との交流も活発なので、多分野の人脈を築きながらいろいろなアイデアについて話合っていきたいです。

授業も多様。人も多様。 それがキャリアにプラスになる。

ベトナム国立衛星センターで人工衛星の地上からのオペレーションについての調査研究をしており、ベトナムと日本の政府間プロジェクトで日本に留学することになりました。留学先候補は複数あったのですが、大規模複雑システムのマネジメントについて学べることから、慶應SDMを選びました。

システム思考やデザイン思考について本格的に学べて、今、とても満足しています。宇宙に関する講義もありますし、プロジェクトマネジメントの授業も大規模複雑システムのハンドリングという点で勉強になります。

慶應SDMには素晴らしいところがたくさんありますが、特に3つ挙げたいと思います。まず、多様性です。授業の内容が多様で、テクノロジー、政治、社会的分野など垣根を越えて学べます。学生も多様で、働きながら学んでいる人が多く、音楽家や建築家、経営者など、

バックグラウンドが多彩です。そうした人たちの経験を教わることは自分のキャリアにプラスになると考えています。

2番目に国際性。多くの国から学生が来ていて、これも多様性と言えますね。授業の後で彼らと話すのがいつも楽しみです。

そして最後に、先生方の専門知識の深さと幅広さ。先生方は学生に多くの時間を割いてくださり、授業の続きを放課後にも自由なかたちで熱心に教えてくださいます。とてもいい環境で学んでいると感じています。

将来は、慶應SDMで学んだ内容を人工衛星の地上オペレーションに活かすことはもちろんですが、日常生活や社会生活にも応用していきたいと考えています。世の中のさまざまなことはシステムと捉えることができ、システム思考やプロジェクトマネジメントの知識を活用できそうだからです。



ド・スアン・フォン

2013年9月入学、2015年9月修士課程修了
Hanoi University of Technology,
Electronics and Telecommunications 卒業
勤務先: ベトナム国立衛星センター

在学生、修了生の声



ナオミ・シムンバ

2018年9月後期博士課程入学
2016年9月入学、2018年9月修士課程修了
University of Zambia, School of Engineering 卒業

価値のある学びはすぐそこに

私は母国ザンビアで電気工学の学位を修めました。現在のように変化の激しい時代には、電気工学の分野の知識と、その他の分野の知識を上手に統合する方法を学ぶ必要があると思っていました。以前「システムデザインとマネジメント」の概念について聞いたことがあり、いろいろと調べていると慶應SDMにたどり着きました。その後、文部科学省の実施する外国人留学生制度で2016年の9月に慶應SDMの修士課程に入学しました。現在、私は後期博士課程の学生ですが、いずれの課程も、当初の期待を超えて素晴らしいものです。慶應SDMでは講義・研究を通じて問題解決能力を鍛え、多くの実務経験を手に入れることができます。修士課程では、講義に関する勉学と研究の両立が求められていました。研究を通じてカンボジアの人々の生活を変え

ることに貢献できて充実していましたが、時間管理がとても難しかったです。現在の後期博士課程では、自身の研究領域に新しい価値を加える様なユニークで前例のない事例を探し続けているので違う大変さを味わっています。

慶應SDMで学生が取り組む研究内容は実に様々で、多様性に富んでいます。グループで課題に取り組む時間も多く、お互いの研究へコメントをします。ここでは、講義をただ聞いて、書き写すというのではなく、過程を理解し、プロジェクトなどに取り組み、アウトプットしていくことが重視されます。誰もが世界中、どこにしようとも、クリックひとつで慶應SDMへの扉を開くことができます。ユニークな方法で学ぶ挑戦をしたいのであれば、私は迷うことなく慶應SDMを勧めます。

基礎データ

男女比（在学生）

2020年3月現在

男女	修士	博士
男	89	44
女	63	18
計	152	62

留学生の国籍

2020年3月までの受入実績

イタリア、イラン、インド、インドネシア、オランダ、カナダ、サウジ・アラビア、ザンビア、シンガポール、スウェーデン、スロバキア、タイ、チュニジア、デンマーク、ドイツ、ネパール、フィリピン、フランス、ベトナム、ペルー、ポーランド、マレーシア、メキシコ、モロッコ、ギリシャ、フィンランド、大韓民国、中国、中国(香港)、中国(台湾)、南アフリカ、米国

年齢分布（在学生）

2020年3月現在

年齢	修士	博士
22～24歳	30	0
25～29歳	26	9
30～34歳	22	5
35～39歳	23	11
40～44歳	18	6
45～49歳	13	12
50～54歳	17	9
55～59歳	3	7
60歳～	0	3
計	152	62

社会人経験者の出身業種

2020年3月現在

社会人経験者（Webエントリーに基づく）	
修士	102
博士	46
計	148

※業種分類は入試のWebエントリーの分類に基づく

業種別	人数
建設業	6
不動産業	1
製造業	30
情報通信業	28
運輸業	1
卸売・小売業	2
金融・保険業	6
医療・福祉	5
教育・学習支援	12
サービス業	26
公務員	10
その他	21
計	148

過去の主な進路

（後期博士課程進学を除く）

中央官庁、地方公務員、大学、CSKホールディングス、DIIネクスト、iDC、KDDI、Meiji Seika ファルマ、NTTデータ、UBS証券会社、アクセンチュア、アジレント・テクノロジー・インターナショナル、アメジスト、イーソリューションズ、インナーライズ53、インフォコム、ウォルト・ディズニー・ジャパン、エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所、エヌ・ティ・ティ・ドコモ、キヤノン、コーエーテクモホールディングス、コクヨ、コムシス情報システム、スズキ、スタンレー電気、ソニー、トヨタテクノクラフト、トヨタ自動車、トヨタ紡織、ドン・キホーテ、ナノオプトニクス・エナジー、ニッセイ情報テクノロジー、ブリヂストン、ボッシュ、みずほ証券、モードツー、ヤフー、ヤマハ、ユニクロ、ランド・ハウス工業、リクルート、リコー、リコーITソリューションズ、レオズ・インターナショナル、ロイヤルバンク・オブ・スコットランド・ビーエルシー、ワークスアプリケーションズ、宇宙航空研究開発機構、神奈川県民共済生活協同組合、国際石油開発帝石、志学館、清水建設、新生銀行、住友スリーエム、住友精密工業、住友生命保険、住友電工情報システム、損害保険ジャパン、大成建設、千代田アドバンスソリューションズ、電通、電通国際情報サービス、電力中央研究所、東京海上日動リスクコンサルティング、東京ガス、東京証券取引所、東京電力、東芝、東北電力、日和産業、日本アイ・ビー・エム、日本イーライリリー、日本インタースタッフ、日本銀行、日本経済新聞社、日本コムシス、日本電信電話、日本ヒューレット・パッカード、日本有人宇宙システム、野村證券、野村総合研究所、日立グローバルストレージテクノロジーズ、日立製作所、富士ゼロックス、本田技術研究所、丸紅、三井住友海上火災保険、三井物産メタルズ、三菱総合研究所、三菱電機、三菱ふそうトラック・バス、三菱UFJインフォメーションテクノロジー、村田機械 など

修了後のキャリア システムの視座を持つリーダーへ。そして、その先へ。

産業界では、大規模・複雑システムをデザインし、プロジェクトを的確にマネジメントしながら成功に導ける人材のニーズが非常に高まっています。慶應SDMでシステムズアプローチを習得し、プロジェクトリーダーや経営者となる素養を身につけた修了生は分野を問わず活躍しています。

社会人修了生～SDM学を活かしてリーダーシップを発揮

社会人経験のある修了生は、技術系ならば、シニアプロダクトマネジャーや、システムアーキテクト、ハードウェアやソフトウェア開発のディレクターとして活躍しています。社会科学系ならば、サービス産業のシニアマネジャー

やディレクター、コンサルタント、事業会社の戦略企画マネジャーなどの立場で戦略企画に参画し、システムズエンジニアリングやデザイン思考を活かしてリーダーシップを発揮しています。また、会社経営に進む者、公務員やNPO/NGO職員として国家や地方のために活躍する者、教育・研究、法曹など専門職として能力を活かす者など、多彩な人材を送り出しています。

新卒修了生～未来のリーダーへ

新卒者は、プロジェクトに貢献しながら必要な経験を積み、近い将来、大規模・複雑システムの構築、運用を任せられるプロジェクトリーダーに成長することが期待されています。

また、自らベンチャー企業を立ち上げて起業家となる者や、後期博士課程に進学してSDM学の研究や普及に取り組んでいる者もいます。

国際的な人的ネットワークを形成

このように、慶應SDM修了生の活躍の場はあらゆる業界に広がっています。慶應SDMで育った修了生は国際感覚豊かで異文化への対応力があるため、国内、海外を問わず力を発揮できることが強みとなっています。また、修了生がいろいろな業界のキーパーソンとして活躍しているため、慶應SDMで培われた人的ネットワークがビジネス上の貴重な財産となっており、そこから新たなビジネスチャンスも生まれています。

国際教育連携

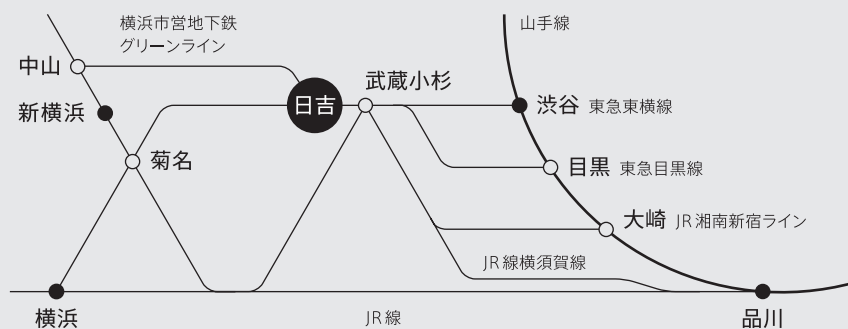
慶應SDMはSDM学の教育方法を、システムズエンジニアリングの先端研究を行っているマサチューセッツ工科大学(MIT、アメリカ)、デザイン思考で知られるスタンフォード大学(アメリカ)、およびデルフト工科大学(オランダ)と共同開発し、「デザインプロジェクト」等の科目で実践して、改善を重ねています。

また、研究科独自の留学制度も用意しています。MIT、スタンフォード大学、デルフト工科大学、フランス国立理工科大学トゥールーズ校(フランス)、ミラノ工科大学(イタリア)、スイス連邦工科大学チューリッヒ校(スイス)、パデュー大学(アメリカ)、アデレード大学(オーストラリア)等との交流があり、毎年、多くの学生が留学に旅立っています。留学先で取得した単位は、修了に必要な単位として認定されることがあります。また、MITのSDMやデルフト工科大学などから多くの学生が慶應SDMに学びに来ています。



留学実績

大学名	留学者数					
	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
マサチューセッツ工科大学(MIT)	-----	-----	派遣1名	-----	-----	-----
スタンフォード大学	-----	-----	-----	-----	-----	-----
デルフト工科大学	派遣6名 受入3名	派遣2名 受入3名	派遣3名 受入6名	派遣3名 受入6名	派遣2名 受入6名	派遣3名 受入2名
フランス理工科大学(INSA) トゥールーズ校	派遣2名 受入1名	-----	受入3名	受入1名	受入2名	-----
ミラノ工科大学	派遣1名 受入2名	派遣2名 受入5名	派遣4名 受入1名	受入2名	派遣1名 受入1名	派遣1名 受入2名
スイス連邦工科大学 チューリッヒ校	受入2名	派遣1名 受入1名	派遣1名	派遣1名	-----	派遣1名
パデュー大学	派遣2名	-----	-----	受入1名	-----	派遣1名
アデレード大学	-----	派遣1名	-----	-----	-----	-----
コペンハーゲン大学	派遣2名 受入1名	派遣2名 受入4名	派遣1名	派遣1名	受入1名	受入1名
ケンブリッジ大学	派遣1名	受入1名	派遣1名	派遣1名 受入1名	派遣1名	派遣1名 受入1名
カーネギーメロン大学 オーストラリア校	2017年度開始			派遣1名 受入3名	派遣1名	受入1名



交通アクセス:「日吉」駅直結

(東急東横線、東急目黒線、横浜市営地下鉄グリーンライン)

- 渋谷～日吉: 急行18分(通勤特急16分)、
横浜～日吉: 急行12分(通勤特急10分)、
新横浜～菊名～日吉: 14分
- 東急東横線の特急は日吉駅には停まりません



慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1
Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jp

www.sdm.keio.ac.jp

設置研究科・専攻	募集人員	授与する学位
システムデザイン・マネジメント研究科	修士課程 77名	修士(システムエンジニアリング学) 修士(システムデザイン・マネジメント学)
システムデザイン・マネジメント専攻 (修士課程／後期博士課程)	後期博士課程 11名	博士(システムエンジニアリング学) 博士(システムデザイン・マネジメント学)

出願・選考日程	I 期	II 期	III 期
Webエントリー / 出願期間	2020年5月15日(金)～5月28日(木)	2020年9月4日(金)～9月17日(木)	2020年12月22日(火)～2021年1月14日(木)
1次選考合格発表	2020年6月12日(金) 午後1時	2020年10月2日(金) 午後1時	2021年1月29日(金) 午後1時
2次選考	2020年6月21日(日)	2020年10月11日(日)	2021年2月6日(土)
2次選考合格発表	2020年6月23日(火) 午後1時	2020年10月13日(火) 午後1時	2021年2月9日(火) 午後1時

入学時に必要な費用	修士課程	後期博士課程
2021年4月入学者	1,982,600円	1,202,600円
2021年9月入学者	991,350円	601,350円

※学費は春学期・秋学期に分けて納入することができます。

※9月入学者の入学時に必要な費用には、入学年度の秋学期分の費用のみを

表示してあります。春学期学費は4月末日までに納入するものとします。

※2021年度の費用は変更される場合があります。

※必ず入学試験要項でご確認ください。

教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科(慶應SDM)リサーチ インテンシブコースおよびラーニングインテンシブコースは、厚生労働大臣から、専門実践教育訓練給付金の対象講座の指定を受けています。これにより、支給要件を満たす場合には、本人がパロークワークに申請することにより、本学に支払われる教育訓練経費の一部定額(最大112万円/2年間)支給を受けることができます。入学前に手続きが必要です。

研究のすゝめ奨学金 最大700,000円(年額・若干名)

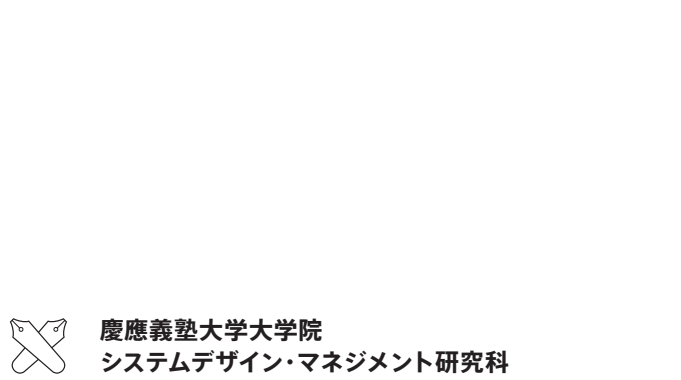
I, II, III期の合格者から選考し、選考された方には合格発表後に通知します。支給は入学後です。

選考された方が入学を辞退した場合は支給されません。

(2019年度は、70万円を5名、50万円を3名に給付しました)

奨学制度	給付・貸与額
慶應義塾大学大学院奨学金	給付年額 600,000円 (期間:1年間)
小泉信三記念大学院特別奨学金	給付月額 30,000円 (期間:1年間)
日本学生支援機構奨学金	修士 貸与月額 (第1種) 50,000円 または 88,000円 後期博士 貸与月額 (第1種) 80,000円 または 122,000円
指定寄付奨学金 (三田会等)	奨学会ごとに異なる
地方公共団体・民間団体奨学金	奨学会ごとに異なる
研究のすゝめ奨学金	左記 参照

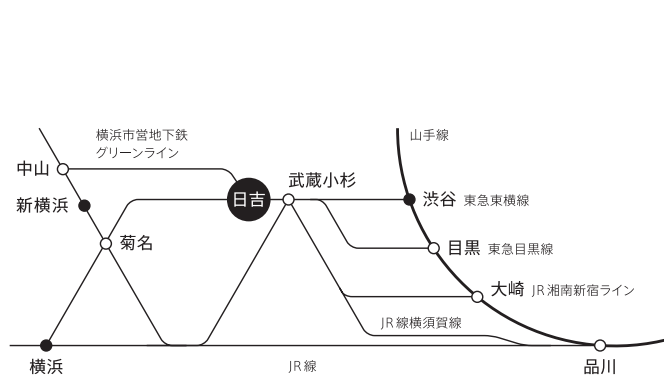
※詳しくは、慶應SDMウェブサイトをご覧ください。 <http://www.sdm.keio.ac.jp/admission/>



〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1

Tel:045-564-2518 Fax:045-562-3502 E-mail:sdm@info.keio.ac.jp

www.sdm.keio.ac.jp



交通アクセス:「日吉」駅直結(東急東横線、東急目黒線、横浜市営地下鉄グリーンライン)

- 渋谷～日吉:急行18分(通勤特急16分)、横浜～日吉:急行12分(通勤特急10分)、新横浜～菊名～日吉:14分
- 東急東横線の特急は日吉駅には停まりません